



掃除について考える

夏季休業中、赴任当初から気になっていた会議室や更衣室、和室、給湯室等の掃除・整理整頓をしました。一番多く処分したのは会議室にある古い教育関係資料です。「温故知新」ももちろん大切ですが、教育にも「不易と流行」があります。作業中に偶然、資料の底に埋もれていた『清掃資料集』（木村和夫編 昭和62年3月 本庄孔版社）を見つけ読んでみたところまさに目からうろこでした。内容は、著名人が書いた教育書、随筆から木村氏の知人の教員の学級だよりに至るまで「清掃」に関する著述の部分を編集した書物です。

いくつか紹介してみます。（内容を箇条書きに直していますことお断りしておきます。）

「あたまがよくなる」

限られた時間に割り当てられた場所をきれいにするには集中力が養われる

どこが汚れているかを素早く目を配り頭を全回転することは頭の働きを活発にさせる

どの場所からどういう順序で掃除をすれば能率が上がるか一瞬で判断することは頭の訓練になる

やり残しがないかすみずみまで気を配るのは注意力を養う

汚れはその日によって違うのでどのようにやり方を変えていくかということは想像力を養う

楽しくない掃除をすることは意志や根気がいる、それが持続力を養う

手足、指先を働かすことは体の血液の循環をよくし大脳のはたらきを助ける

掃除を一生懸命すると頭の訓練になり勉強もできるようになり勉強の成績も上がる

「入試合格との関係」

清掃態度の善し悪しと、高校の合格・不合格は大変関係がある

ある有名な大学予備校の校長先生の言葉 「掃除態度と、大学合格とは非常に関係がある」

数年前、自転車で帰宅途中の鴻巣高校の女子生徒が、道路上に大量に散乱している古紙類を「ほうっておけない」気持ちから、わざわざ近くのコンビニでゴミ袋を買って必死に拾い集めたということが新聞記事にもなり話題になりました。一方、鴻巣高校周辺のいわゆる「しろやま」には、この時期雑草の繁茂をいいことに？空き缶、ペットボトル、弁当の空き容器、はたまた一般家庭ゴミまで捨てられている状況です。授業日ですと、鴻巣高校の生徒がボランティアで定期的に早朝ゴミ拾いをしていてきれいなのですが……。大震災禍においてもなお規則・礼儀・マナーを重んじる国民性が外国から驚きと高い評価を受けているのに、この「ポイ捨て」は本当に恥ずかしいことです。

私がかつて3年生を担当していた時、進学校である県北の県立高校を志望していた男子生徒がいました。数回の三者面談を通して彼と同程度の成績の先輩達の実績から合格の可能性は極めて低いということを伝えてきましたが、彼は変更しませんでした。結果は「合格」。そういえば、彼は清掃時冬でも半袖短パンで、無言で取り組み終了時には汗びっしょりかいていました。自分の仕事・役割は責任をもって行い、常にクラスのために尽くしていました。彼の何に対しても真面目に努力する姿勢が「掃除」にも表れていたということです。

結びに、『清掃資料集』からも一つ。「紙くずを見つけたらすぐ拾う人は、だれも見えていないところで掃除をする人と同じで、世の中を明るくするための大切な人であると共に、意志の強い立派な人として生きぬくことでしょう。責任感も強く人から信頼されることでしょう。」

蛇足ですが、慶應義塾大学の開校当時、大学の敷地内にはゴミ一つ落ちていなかったそうです。それは、創設者の福沢諭吉が毎日ゴミを拾っていたから、という逸話があります。 (校長 橋本 浩)